

## いじめを考える日講話 全文

校長先生は今から 38 年前にここ長吉西中学校で学校の先生としてのスタートを切りました。ですから、今この放送を聞いてくれている、君たちの中の何人かのお父さんお母さんが校長先生の当時の教え子になります。

なぜ、こんな話から入ったかと言うと、その頃は、日本全国の中学校が荒れていました。長吉西中学校もそうでした。今から想像もつきませんが、物が壊れたりと相当ひどいことになった年もありました。全校生徒も今より多く、最大では 1000 人を超えた時もありました。荒れていると、いじめも起きやすいのか、いろいろ形のいじめがあり、表ざたになったものや、わからずにうやむやになったものも数多くあったと思います。

そんな中学生時代を過ごしたサッカーチームの元生徒が 10 年後に同窓会をやろうということになりました。その当時、サッカーチームの顧問であった校長先生も同窓会に呼んでもらいました。その席上、もちろん 25 歳になっていますからアルコールも飲めるわけです。だいぶ酔いが回ってきたころに、一人の元生徒がちょっとかいを出されたことをきっかけに喧嘩になりそうになりました。もちろんもう、みんないい大人ですから止めに入った訳です。しかし、ちょっとかいを出された元生徒は収まりません。その元生徒は、私の記憶では「おとなしい感じの子」だったのですよ。体格はかなり良くなつたましたが。その元生徒が「お前はな（ちょっとかいを出したほうに対して）中学校時代からそうや、俺がどれだけお前にパシリさせられたか覚えてんのか。（てんぱち：当時のわたしのあだ名）先生のいないときにジュース買いに行かされたり、遠征の時に荷物待たされたりな。表出ろや、あの時の分も合わせてお返したるわ」と止まりません。ちょっとかいを出したほうは小さい声で「そんなことあったかなあ」とつぶやくのみで当惑しています。どうやら、本当に覚えてなかつたようです。私もショックでした。当時はサッカーチームの中の仲の良いグループだと思い見ていましたから。

この後で、ほかのメンバーに聞いた話ですが、実際そのようないじめがあつたそうです。「黙っていた俺たちも悪いと思う。でも、やられたほうは覚えていて、やつたほうはスッコーンと忘れるもんやねんな。それはびっくりした」と言ってました。顧問であった私も深く反省しなければなりません。わからなかつた、知らなかつたことを言い訳にはできません。教師が知らない、見えない、ところで起こるのがいじめなのですから。見ていた生徒、知っていた生徒が、先生に当たり前のように知らせることができるような学校にしなければなりません。

この事件で私が強く感じたのは、いじめたほうの人間は過去のことを忘れたとしても、いじめられたほうは大げさかもしれませんが一生忘れないということです。「こころ」に受けたキズはなかなか癒えません。遊び半分でやつたとか、冗談でやつたとかよく耳にしますよね。とんでもないことです。いじめられたほうが、どんな気持ちでいるのかを想像してみてください。想像できますよね。ぜひとも想像力の欠如した人間にならないでください。あなたも、隣に座っている人も、同じかけがえのない人なのです。覚えておいてください、いじめられていい人はこの世に誰一人いないことを。せっかく、この長吉西中で出会ったのです。お互いのいいところを見つけて、いい意味で笑い合える関係を作ってください。強くお願ひしておきます。